

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

紀美野町立下神野小学校
教諭 福田 恵 介

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、今日的教育課題解決に資するため、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高め、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的として実施されている。述べるまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。「研究」とは、辞書によれば「物事について深く考えたり調べたりして真理を明らかにすること」とある。「修養」とは「知識を高め、品性を磨き、自己の人格形成に努めること」とある。今回、研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と教員としての資質を広く高める修養の機会」として受けとめ、1年間研鑽を積むこととなった。

研修は5つの段階が設定された(図参照)。まず研究では、第1段階(基礎期)に研究に関する基礎基本を学んだ。第2段階(向上期)では研究計画立案や模擬授業等に取り組み、第3段階(探究期)では所属校で授業研究を実施した。第4段階(充実期)ではデータ分析と研究発表を行い、第5段階(修了期)では研究成果物を作成した。次に、修養では、授業力・学校組織開発力・校内研修運営力の向上トレーニングが段階ごとに実施され、学校におけるミドルリーダーの役割と行動について年間を通じて学んだ。加えて、センターが実施する多岐に渡る研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講や、所属校における学校課題解決のための校内研修参加等を通して、幅広く教員としての力量向上を目指してきた。

この1年間、校種や地域の異なる研修員や指導主事等多くの人との交流を通して、自己の視野を広げ、学び続けることの大切さを日々感じる事ができた。研究については、先行研究から理論や具体的な指導法等を学び、授業研究を実施した。その効果分析を通して、児童の実態に即した道徳の授業づくりの大切さを一層感じるとともに、資料分析や発問等についての考え方を学び深める事ができた。また、修養では、様々な研修を受講することで、子どもや学校を取り巻く教育課題について、多くの示唆を得る事ができた。特に、自分自身がミドルリーダーとして果たすべき役割について自覚する事ができ、具体的に実践していくことの必要性を感じた。

今後、人とのつながりや学んだことを生かし、所属校の道徳の授業の充実を図るとともに、校内研修において、学校や児童の抱える課題の解決に向け、方策を提案し、指導体制づくりに関わっていききたいと思う。

なお、それぞれの課題に基づき年間を通して行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等作成、模擬授業	・授業研究計画を第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析 ・和歌山教育実践研究大会で発表	・研究報告書、資料の作成 ・研究成果の普及
修養	所属校研修 [所属校との連携・研修成果の還元] ■ 「授業力」・「学校組織開発力」・「校内研修運営力」向上トレーニング ■ 専門性の向上を目指す研修講座受講 ■ 初任者研修、10年経験者研修聴講 ■ 学びの丘指導主事等による研修員研修				

図 研修の概要

